

(3) 河川改修事業

① 治水事業の沿革

神崎川の河川改修工事は、昭和初期の左門殿川への分派工事から着手され、戦前の室戸台風（昭和 9 年 9 月）、戦後のジェーン台風（昭和 25 年 9 月）、第二室戸台風（昭和 36 年 9 月）等の著名な高潮・洪水による被害のたびに復旧工事が行われてきました。

昭和 25 年には、東海道本線より下流において、中小河川神崎川改修工事に着手、昭和 36 年 9 月の第二室戸台風による甚大な被害により、高潮対策緊急三ヵ年計画が策定され、堤防の嵩上げを優先して工事が実施されました。

昭和 40 年度には第二次治水事業五ヵ年計画を策定、高潮対策事業として、出来島水門、西島閘門をはじめとする防潮水門 10 水門を設置、昭和 46 年以降は、内水排除対策にも着手し、旧猪名川水門（豊中市管理）などの排水機場が設置されました。

また、西大阪地域では、地盤が弱いこともあり、耐震補強工事を昭和 48 年度より実施していましたが、平成 7 年の阪神・淡路大震災を契機に基準を見直し、地震に対しても堤防・護岸が安全に機能するよう再補強を行っています。

なお、神崎川下流部は、国直轄河川（猪名川）合流部下流部を大阪府・兵庫県で管理、整備している特異な区間です。

大阪府では、神崎川の洪水対策として、全体計画（平成 9 年 11 月、治水安全度 1/40）に基づき、主に河床掘削を実施しています。

表-5.1 神崎川の治水事業の沿革（つづき）

年	項目
S. 35	・地盤沈下ピークに達する ・治水事業 5 ヵ年計画スタート（S35～39） ・高潮対策事業に大阪地区が採択
S. 36. 9	○第二室戸台風襲来・・・甚大な被害を受ける ・高潮対策緊急 3 ヵ年計画発足・・・第二室戸台風の被害を復旧 ・防潮堤・・・22.7km ・橋梁扛上・・・1 ヵ所
S. 39	・高潮対策緊急三ヵ年計画完成
S. 40	・第二次治水事業 5 ヵ年計画スタート ・大阪高潮対策恒久計画を策定
S. 41. 11	・旧猪名川水門完成 ・左門殿川、神崎川の阪神西大阪線より東海道線間、天竺川下流部の防潮堤嵩上工事に着手
S. 42	・旧猪名川ポンプ場の建設に着手 ・左門殿川、中島川、神崎川の阪神西大阪線より下流部の防潮堤嵩上工事に着手 ・万国博関連事業として高潮対策事業を促進 ・防潮鉄扉（神崎大橋、阪神本線等）の建設 ・神崎川の低水路工事に着手
S. 42. 7. 8	○北摂豪雨により北大阪地域被害甚大
S. 43	・神崎川大吹橋下流部の防潮堤嵩上工事に着手
S. 44. 2 . 6	・中小河川改修事業安威川全体計画認可（44. 2. 1 阪治発第 54 号） ・旧猪名川ポンプ場部分竣工 ・出来島水門改築完成
S. 45	・モスリン橋、辰巳橋、中島大橋及び出来島大橋の嵩上完成
S. 46 . 12	・神崎川嵩上工事に着手 ・淀川工事実施基本計画策定
S. 47	・阪神本線の嵩上工事に着手。神洲橋の嵩上完成 ・東海道線上神崎川橋梁の改築工事に着手 ・河川汚濁対策浚渫事業が河川浄化事業となる（神崎川等継続）
S. 48	・旧猪名川ポンプ場完成（40m ³ /s） ・神崎川上流部の低水路工事概成 ・神崎川河道整備事業に採択
S. 49	・中島川の改修工事に着手
S. 52	・阪神本線の嵩上工事が完成 ・第五次治水事業 5 ヵ年計画スタート（S52～56）
S. 54	・猪名川流域が総合治水対策特定河川事業に採択
S. 56	・神崎橋嵩上工事が完成
S. 57	・第六次治水事業 5 ヵ年計画スタート（S57～61）
S. 62	・神崎橋上流部嵩上工事に着手 ・第七次治水事業 5 ヵ年計画スタート（S62～H3）
S. 63	・神崎川上流部嵩上工事概成 ・河道整備促進事業採択

表-5.1 神崎川の治水事業の沿革

年	項目
S. 7～17	・神崎川本川（河口～藻川合流点）、同派川及び左門殿川の改修に着手 S17 年完成（工費約 400 万円）
S. 9. 9	○室戸台風により数箇所堤防決壊・崩壊が発生
S. 9～10	・室戸台風による被害の復旧工事（L=6, 100m） [下流部地盤沈下進行・・・堤防計画高維持できず]
S. 19～21	・3 ヵ年計画・・・神崎川下流地帯防災事業 [神崎川本川、同派川、左門殿川等の堤防嵩上工事]
S. 25. 9	○ジェーン台風襲来・・・高潮被害激甚
S. 25～34	・中小河川神崎川改修工事に着手・・・東海道本線より下流 ・全体事業費・・・12. 5 億円 防潮堤・・・12. 8km 排水施設・・・2 ヶ所 橋梁扛上・・・2 ヶ所 ・河口部堤防高 0. P. +6. 50m とし、上流へ逆勾配 ・防潮鉄扉、排水ポンプによる防潮方式を採用
S. 30. 12	・猪名川改修計画の改訂により阪急神戸線まで事業区域を延長 （藻川合流点計画を 0. P. +5. 75m に変更）
S. 33	・神崎川中・下流部、工業用水法による地下水汲み上げ規制を実施
S. 34	・神崎川河川汚濁対策浚渫事業に着手

出典：神崎川全体計画書 大阪府

表-5.2 神崎川の治水事業の沿革（平成年代）

年	項目
H. 2	・ 暫定護岸嵩上げ工事完成
H. 3	・ 神崎川中流部にて桜づつみ整備に着手（～H9） ・ 阪神西大阪線橋梁扛上工事に着手（～H11）
H. 6	・ 阪神大震災災害復旧工事着手（～H8）
H. 7	・ 阪神大震災による沈下対策着手（～H10） ・ 河道整備概成（神崎川右岸高水敷緑道等）
H. 8	・ 第二次浄化浚渫完了 ・ 土堤耐震補強（液状化対策）着手（大豊大橋上流左岸）
H. 9	・ 味生水質浄化施設工事着手（～H11） ・ 高浜橋防災船着場工事着手（～H11）
H. 10	・ 沈下対策（嵩上げ）完了
H. 11	・ 堤防（特殊堤）再補強着手
H. 12	・ 緊急3ヵ年河床掘削着手（～H15） ・ 佃募債船着場工事着手（～H16）
H. 14	・ 1/40 河床掘削着手（中島川 H17） ・ 榎木防災船着場工事着手（～H15） ・ 三国防災船着場工事着手（～H16）
H. 17	・ 1/40 神崎川河床掘削着手 ・ 神崎川上流部浄化浚渫着工 ・ 神崎川左岸下流部耐震補強着手（防災船着場）

出典：西大阪治水事務所 神崎川出張所 資料

表-5.3 神崎川改修計画の変遷

計画名	年月日	改修計画契機	計画流量(m ³ /s)				備考
			神崎川 (神崎橋)	猪名川 (戸の内)	神崎川 上流	安威川 (相川)	
神崎川中小河川改良工事	昭和11年		1,393		418		安威川昭和16年完成
直轄河川改良工事	昭和15年3月	昭和13年7月出水	1,393	1,100 [1,450]			
淀川水系工事实施基本計画 (昭和40年4月)	昭和24年	戦後の治水計画	2,590	1,850	740	690	神崎川昭和25年から中小基本計画はダム計画など調査検討計画として改訂せず。
安威川総合開発神崎川基本計画	昭和42年11月	昭和28年9月出水 昭和42年7月出水	3,150 (1/100)	1,850	1,300 [1,800]	1,250 [1,750]	安威川総合昭和44年2月月大臣許可現在実施中の計画
淀川水系工事实施基本計画 (昭和46年12月)	昭和46年12月	昭和28年9月出水 昭和35年8月出水 昭和42年7月出水	4,300 [6,000] (1/200)	2,800 [4,000]	1,800 [2,200] (1/150)	1,250※ [1,750] (1/100)	基本計画改訂府の実施計検討中府下のバランスから実施していない。
神崎川全体計画	平成9年11月	同上	3,400 (1/40)	2,300 (1/40)	1,300 (1/40)		

出典：神崎川全体計画書 大阪府

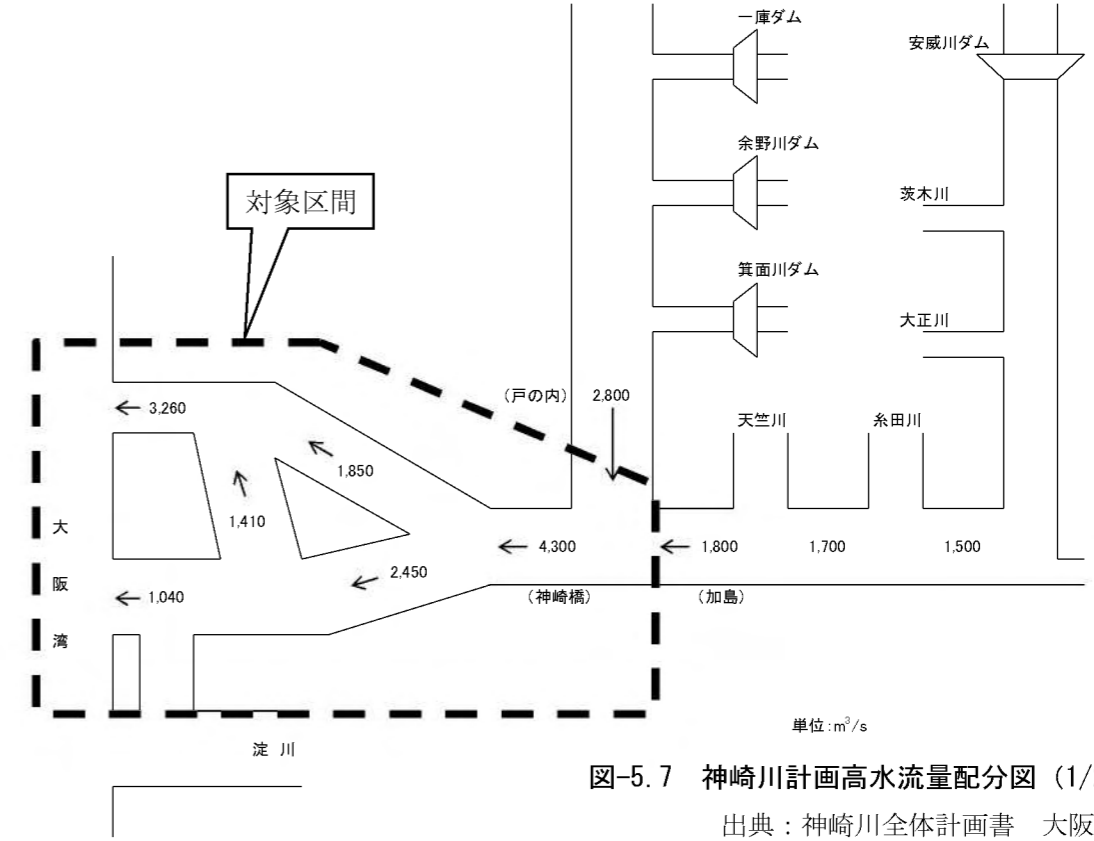


図-5.7 神崎川計画高水流量配分図 (1/200)

出典：神崎川全体計画書 大阪府

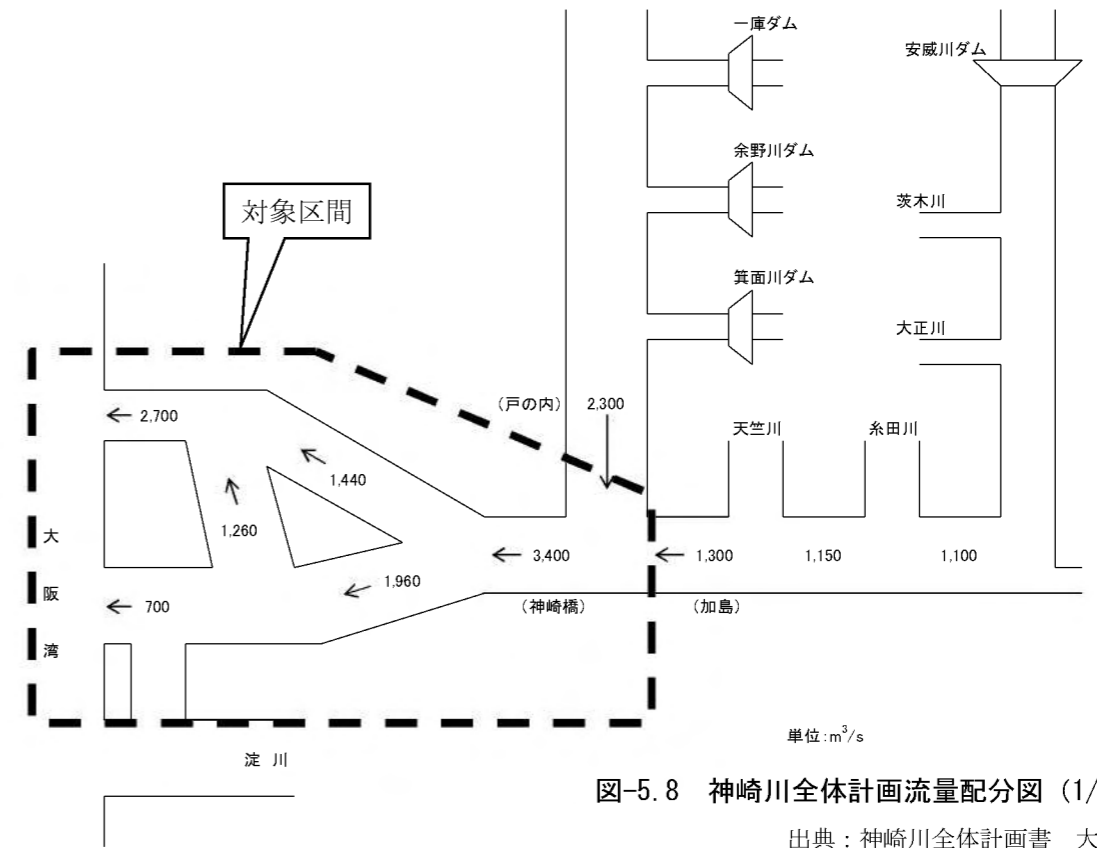


図-5.8 神崎川全体計画流量配分図 (1/40)

出典：神崎川全体計画書 大阪府

② 浚渫工事

神崎川では、主に「洪水対策」のため、昭和52年以降定期的に土砂の浚渫工事を行っています。

表-5.4 土砂浚渫量の経年変化

単位：m³

年度	神崎川			中島川			左門殿川			西島川			合計		
	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	計
S59	52,954	3,659	56,613	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52,954	3,659	56,613
S60	46,266	1,295	47,561	0	0	0	0	0	0	0	3,774	3,774	46,266	5,069	51,335
S61	31,486	1,733	33,219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31,486	1,733	33,219
S62	33,734	3,579	37,313	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33,734	3,579	37,313
S63	9,697	6,964	16,661	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,697	6,964	16,661
H1	67,352	3,876	71,228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67,352	3,876	71,228
H2	142,089	16,043	158,132	0	0	0	0	0	0	0	2,991	2,991	142,089	19,034	161,123
H3	70,919	12,598	83,517	0	0	0	0	0	0	0	5,196	5,196	70,919	17,794	88,713
H4	36,795	3,173	39,968	0	0	0	0	0	0	0	5,993	5,993	36,795	9,166	45,961
H5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,048	6,048	0	6,048	6,048
H6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,196	5,196	0	5,196	5,196
H7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,518	2,518	0	2,518	2,518
H9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,272	1,272	0	1,272	1,272
H11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,181	2,181	0	2,181	2,181
H12	50,000	0	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000
H13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H14	8,161	0	8,161	45,689	0	45,689	0	0	0	0	0	0	53,850	0	53,850
H15	0	0	0	58,929	0	58,929	0	0	0	0	0	0	58,929	0	58,929
H16	0	0	0	62,963	0	62,963	0	0	0	0	0	0	62,963	0	62,963
H17	63,459	0	63,459	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63,459	0	63,459
H18	39,658	3,596	43,254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39,658	3,596	43,254
H19	50,046	0	50,046	0	0	0	26,736	0	26,736	0	0	0	76,782	0	76,782
合計	702,616	56,516	759,132	167,581	0	167,581	26,736	0	26,736	0	35,169	35,169	896,933	91,685	988,618

出典：西大阪治水事務所 神崎川出張所 資料



図-5.9 浚渫工事概要図（平成20年3月末現在）

資料：西大阪治水事務所 神崎川出張所

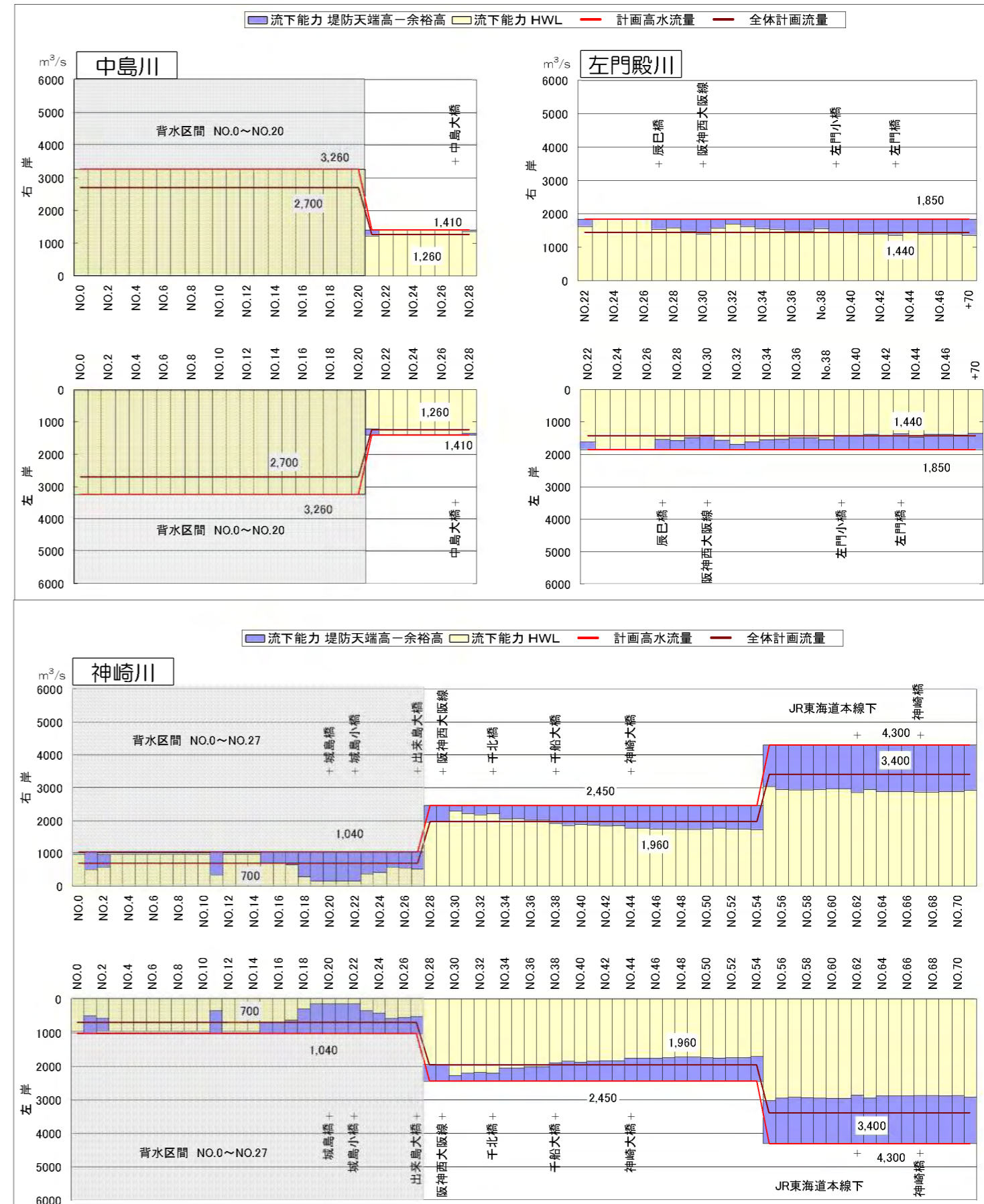
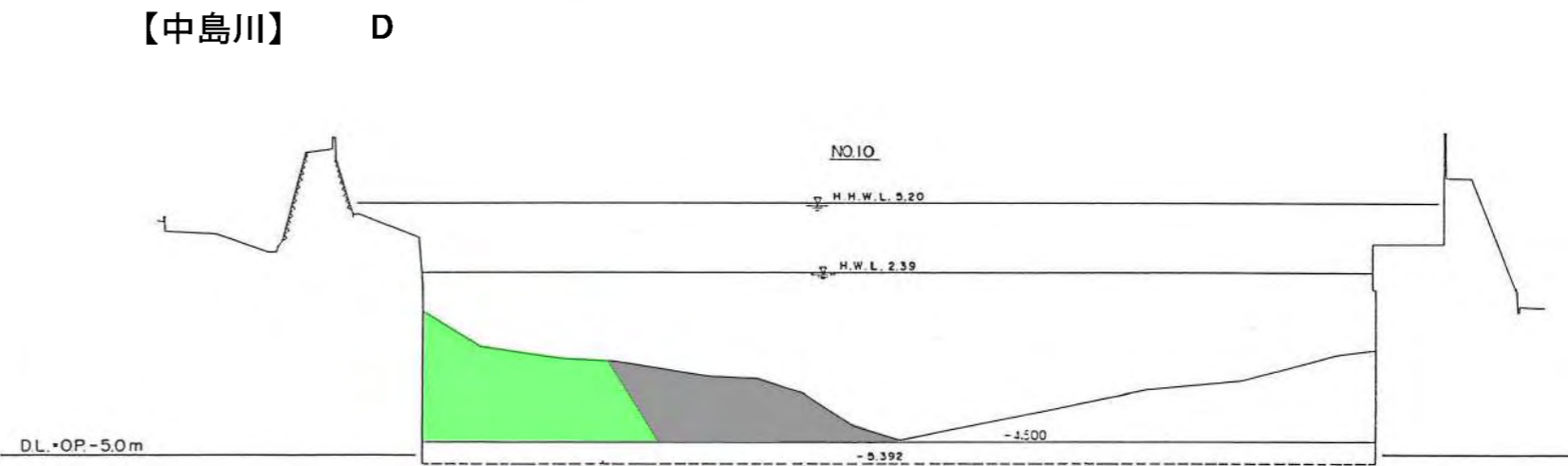
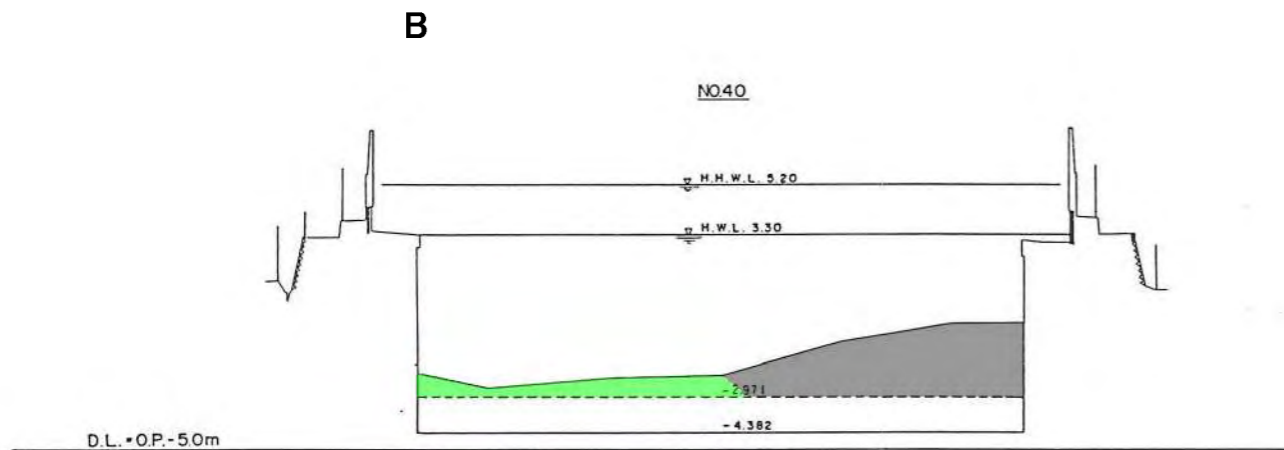
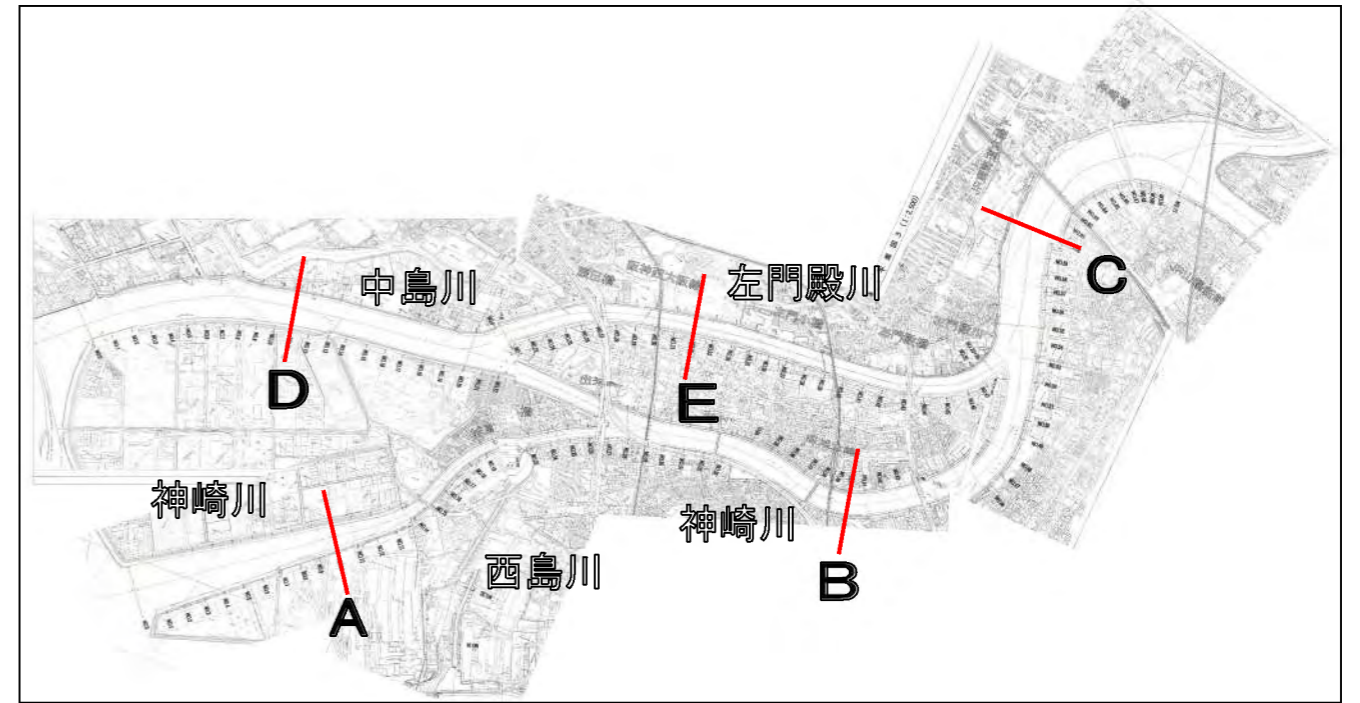
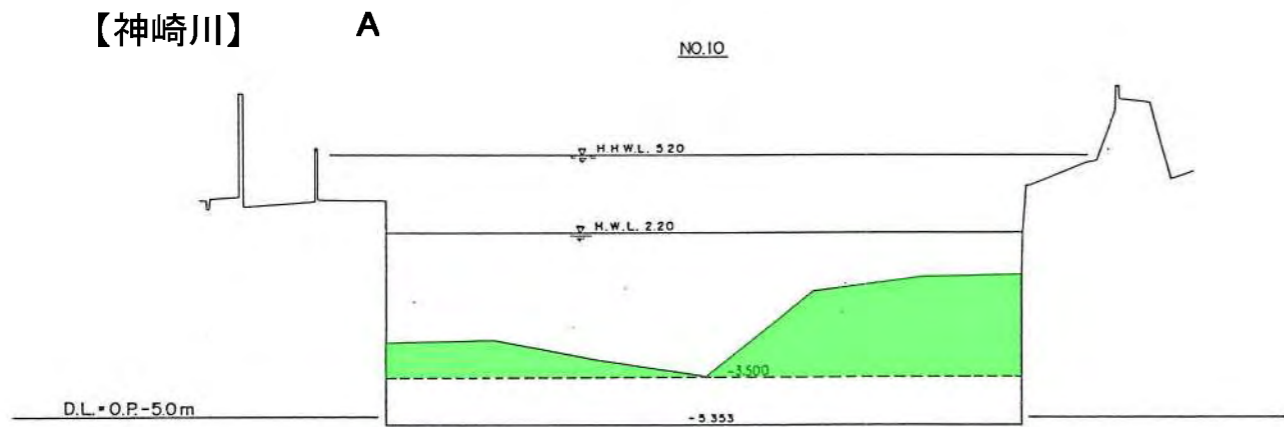
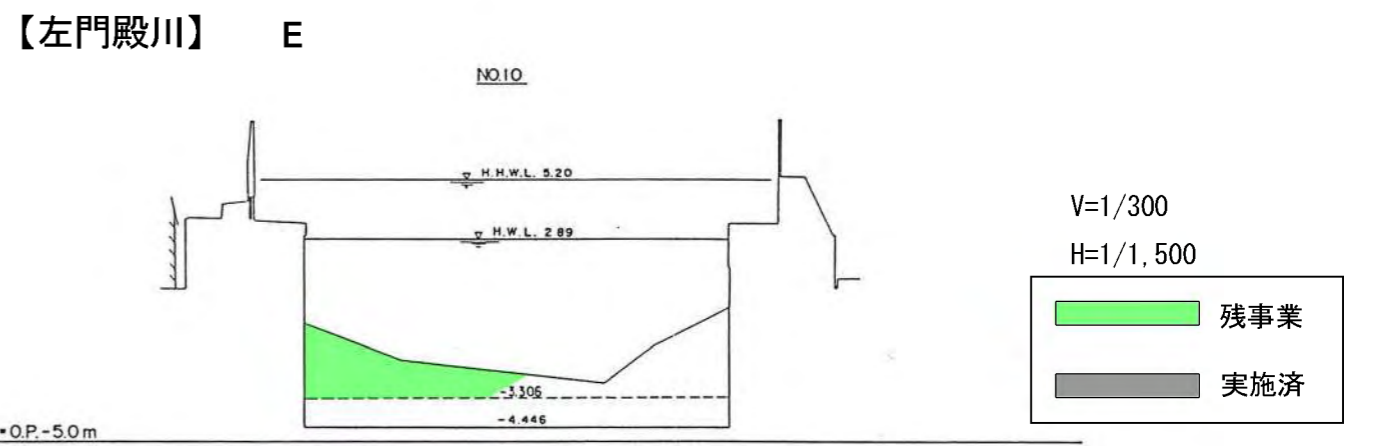
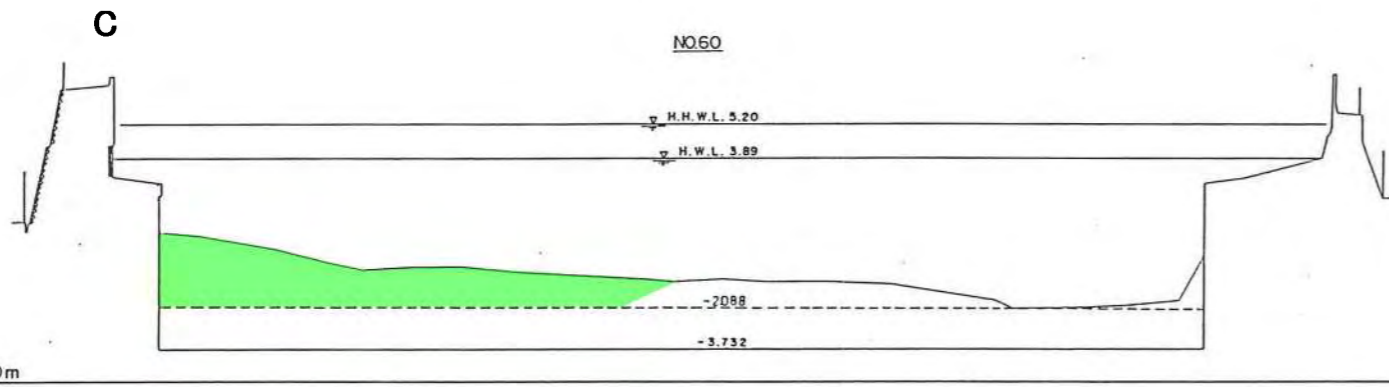


図-5.10 流下能力図（神崎川、中島川、左門殿川）



※ 実際には、護岸際 3m 程度は、浚渫せずに残しています



V=1/300
H=1/1,500

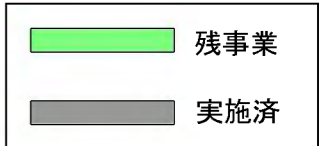


図-5.11 浚渫工事横断面図

③ 鉄扉・防潮扉

神崎川下流ブロックでは、鉄扉・防潮扉といった暫定的な処置により、当面の安全度を確保している箇所があります。

表-5.5 鉄扉・防潮扉一覧

河川名	名称	型式	扉体				
			長 (m)	巾 (m)	高 (m)	重量 (t)	
神崎川	阪急神戸線右岸防潮扉	アルミ防潮扉	アルミ製手動引戸式(手押し)	10.5	0.60	0.65	1.8
	阪急神戸線左岸防潮扉		アルミ製手動引戸式(手押し)	10.5	0.75	1.00	2.5
左門殿川	左門橋左岸防潮鉄扉	国道2号鉄扉	油圧走行引戸式	23.4	1.20	4.40	40.3
神崎川	神崎大橋右岸防潮扉		油圧走行引戸式	23.4	1.20	2.40	19.9
	神崎大橋左岸防潮扉	油圧走行引戸式	22.3	1.20	3.30	28.8	
	千船大橋右岸防潮扉	アルミ防潮扉	アルミ製手動走行引戸式	11.5	0.90	1.00	2.9
	千船大橋左岸防潮扉		アルミ製手動走行引戸式	11.5	0.90	1.00	2.9
	大和田船溜防潮扉		アルミ製手動走行引戸式	7.6	0.70	2.10	2.2
	千北橋右岸防潮扉		アルミ製手動走行引戸式	13.4	1.00	1.35	3.9
	千北橋左岸防潮扉	アルミ製手動走行引戸式	10.5	0.80	1.00	2.6	
	中山鋼業防潮角落	民間鉄扉	鋼製角落	4.35	0.25	1.40	1.5
	合同製鐵防潮鉄扉		手動走行引戸式	6.66	0.60	4.62	11.8

出典 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所 ホームページ



図-5.12 鉄扉・防潮扉設置箇所位置図

出典 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所 ホームページ



神崎大橋左岸防潮扉 (国道2号鉄扉)



千北橋左岸防潮扉 (アルミ防潮扉)

④ 耐震補強工事

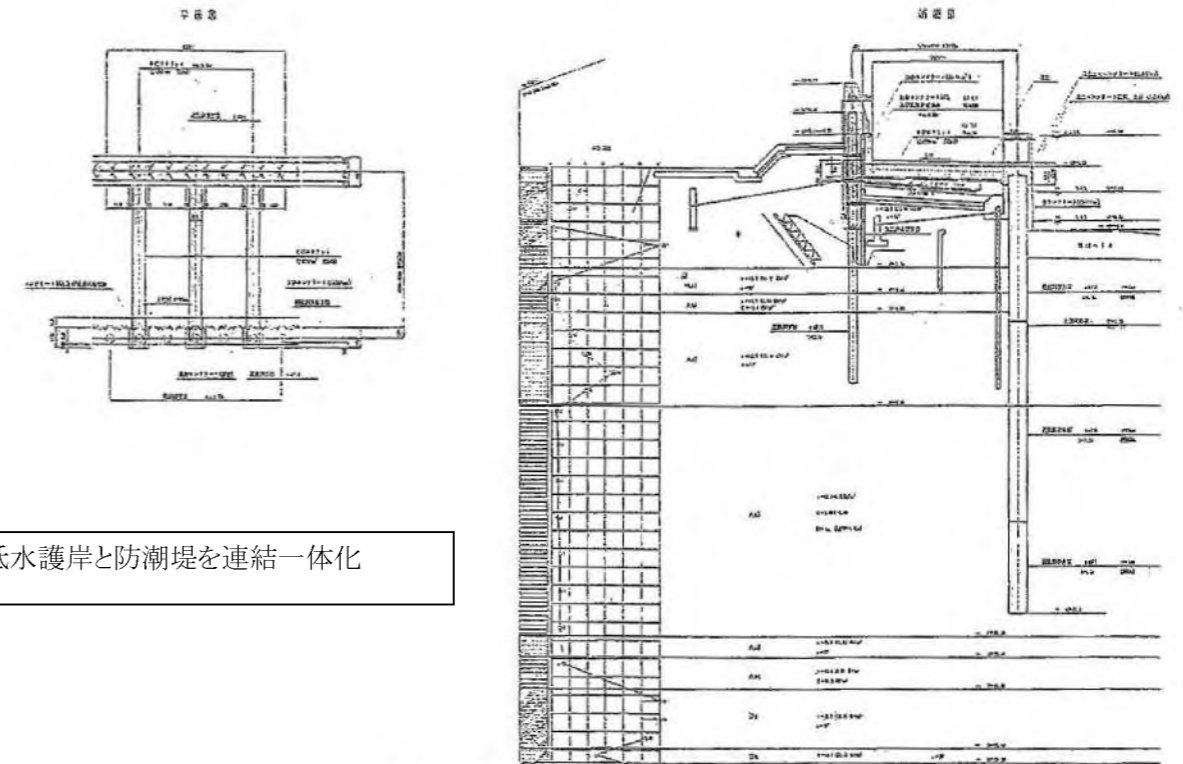
神崎川では、平成7年の阪神・淡路大震災の被害により、順次、堤防や護岸の耐震補強工事を行っています。

現在、「大阪府土木部地震防災アクションプログラム」(平成10年3月)により、二次災害防止の観点から、直下型地震により被災しても浸水しないまでの堤防高さを確保するとともに、早期に修復可能な損傷に留めるまで耐震性を高める事業を行っています。

表-5.6 直下型地震対応 護岸再補強計画

種別	河川名	全体計画 (m)	施工済 (m)	残延長 (m)	合計 (m)
特殊堤	神崎川	2000	1406.5	545	1956.5
	中島川	200	0	200	200
	左門殿川	850	878.3	0	878.3
	小計	3050	2284.8	745	3029.8
土堤	神崎川	1700	583.2	1100	1683.2
合計		4750	2868	1845	4713

備考) 平成18年度末時点



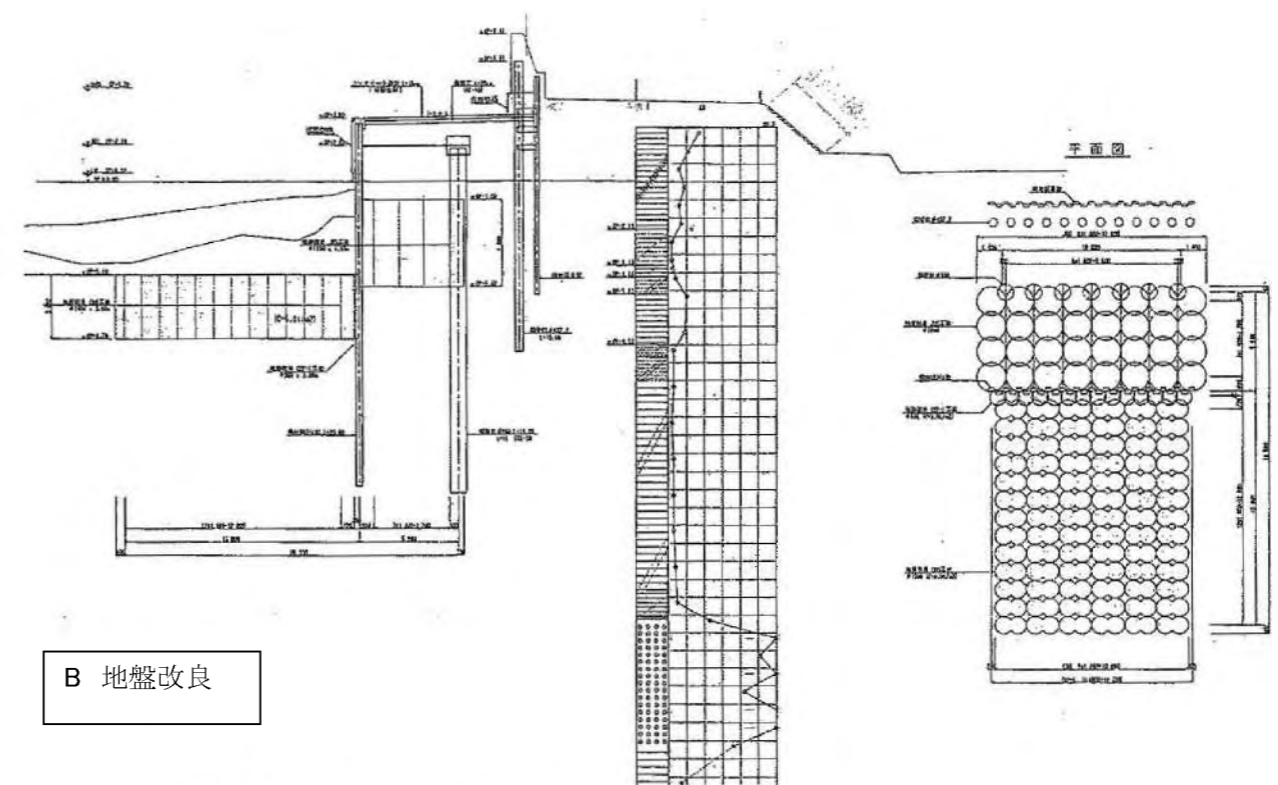
A 低水護岸と防潮堤を連結一体化

神崎川城島橋下流左岸補強断面



図-5.13 耐震補強箇所位置図 (平成20年3月末現在)

資料 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所



B 地盤改良

神崎川城島橋下流右岸補強断面

図-5.14 耐震補強箇所横断面図